



多剤耐性緑膿菌（MDR P）による院内感染症発生患者数

<項目解説>

多剤耐性緑膿菌（MDR P）は一般家庭でも見られる毒素の弱い菌ですが、抵抗力が低下した患者さんに感染すると、肺炎などの重篤な感染症を引き起こし死亡する場合があります。

院内感染症は、適切な介入によって、かなりの程度で発症を減じることが可能となります。当指標は、安全で良質な医療を提供する環境として、十分な感染対策を行っている点を評価します。

<当院の実績>

【平成25年度】	0件
【平成26年度】	0件
【平成27年度】	0件
【平成28年度】	1件
【平成29年度】	0件

<当院の自己点検評価>

当院は、JANIS（厚生労働省院内感染対策サーベイランス）事業に参加し、ベースラインや動向を把握し、院内感染対策を実施しています。また、院内感染対策マニュアルのMDRO（多剤耐性菌）対応システムに基づいた、臨床検査技術科からの早期情報提供やICN（感染管理認定看護師）の早期介入により、多剤耐性緑膿菌（MDR P）のアウトブレイク（通常レベル以上の感染症増加）は起きておりません。

今後は、院内感染対策の継続と抗菌薬の適正使用をさらに推進し、安全な医療を提供できる基盤を築くことに努めてまいります。

<定義>

- ・期間中の新規MDR P感染症発症患者数
- ・保菌者による持ち込み感染は除く
- ・入院3日目以降に発生したものとする

<算式>

実数